

〔飼鳥必用〕下深山頰白

此鳥京都大坂より出る、まゝ、江戸にても取也、勿論大胸小むねとて貳通り、尤大胸の方は年數飼ば、啼音よろしくなくなり、

頰白

此鳥春秋澤山に渡る鳥也、子は雌雄一向分り兼候、右見分様、泊木へとまる頃、ひかへの爪の先キ少し黒み出たるが雄也、但シ此子鳥に虫付とて、鈴虫松虫こうろぎの類、或はのじこ川原鴉かやく、り、又は笛つけとて色々のもの聞せ、よく付候鳥を寵愛いたし候也、外にかけ啼する事甚あしく、外家に入障子をたて、棚などに置啼せる事宜し、貳歳の内晴たる處にてくせらせ啼すれば、其鈴音ぬけるもの也、三歳迄はずいぶんまづかななる處に置てよろし、三歳よりは構なし、右頰白親鳥九州にても、啼方よろしき鳥を所々聞廻り、諸鈴片鈴の啼音を段々聞分、よろしき親鳥を野移し賞美し飼事専ら也、子飼のつけ子なき方、鈴色あしきとて、野鳥を寵愛し、年數三年もかへば、やう／＼と下音にて啼四年もたてば、野の通りいつはいになく、いづれ九州は鳥を氣長に飼事名人也、總別鳴鳥は氣長にして、野の親鳥を取、年をかさね、寵愛する事至つて上手也、

〔武江産物志〕山鳥類 ほうじろ千住 榎戸邊

菊戴鳥

〔本朝食鑑六林禽〕菊戴鳥イタキ

集解、狀似目白、而背翅青綠色、頂上有黃毛、如菊花者、而似戴之故名、眉邊有黑斑、翅尾黑、腰黃腹白、其聲短小、形亦極小、而目白、鷓鴣之類也、

〔本朝食鑑六華和異同〕菊戴鳥

或曰菊戴者戴勝也、必大按戴勝禮月令、季春戴勝降于桑、注織紵之鳥、爾雅戴鴛註云、鴛即頭上勝、今呼爲戴勝、或謂戴頰、帥曠禽經、揚雄方言爲鳴鳩、郭璞曰、非也、呂氏春秋注曰、鷓也、李時珍曰、山鵲有文